

みんな なかよく

平成25年7月16日
山口市立小郡小学校
生徒指導だより
(文書作成：生徒指導主任)

今しかできないことを子どもとともに。

夏休みに入ります。その間家庭で過ごすこととなりますが夏休みこそ家庭教育の絶好の機会ととらえ、日頃学校生活ではできない体験を共有できるよい機会だと思います。

ラジオ体操にお子さんと参加してみると、何らかの発見があるものです。

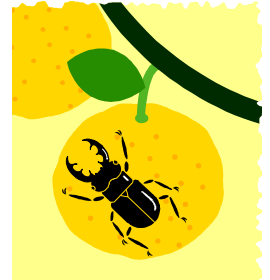
カブトムシやクワガタ、キリギリスなどを一緒に取りに行き、何も収穫がなかったのも思い出となります。

毎日の悩みは昼食でしょう。我が家では、夏休み中の昼ご飯を作るが大変だとよく聞かされましたが、一緒に作ってみるとか、見守りながら任せてみることは休みでないといけないことです。

「大人の言うことはなかなか聞かないが、大人のすることはすぐ真似をする。」のが子どもです。一緒に過ごす時間の多い夏休み。どんなことでも親が頑張っている姿を見せるのもすばらしい家庭教育です。親がよき指導者となって教え導いてくださればと思います。

子どもが大きくなって実感していること

…子どもが大きくなると一緒にいたくても一緒に行動してくれません。「だっこして!」と言っていたころに「だっこ」しておけばよかった。「遊んで!」と言っていたころに一緒に遊んでおけばよかったと思うこの頃です。(保護者の皆様は、まさしく今がその時期です)



望ましい服装について (2学期からは靴下は白色で)

学校での服装(夏)について、学校とご家庭とで再度共通理解をしておきたいと思います。

男子	・白色の半袖のシャツ、黒色の半ズボン	・野球帽型帽子(紺色、校章入り)
女子	・白色の半袖ブラウス、紺色のスカート	・メトロ型帽子(紺色、校章入り)
男女共通	・上靴は白で指定されたもの ・靴下の色は、白とし、膝から下までのもの ・名札をつける	

4月から「靴下の色は、白とし、膝から下までのものとする」と決まりを追加しお知らせしてまいりました。1学期は移行期間でしたが、2学期からは、白色の靴下で登校するようご協力をお願いします。かつては、白で統一していた靴下もだんだん華美になってきていました。そこで、今まで始業式や終業式、卒業式などの行事の時には、全員が白い靴下をはいており、それを通常の学校生活でも広げていくこととしました。

また、先日の学校便り「そよげ風」で紹介したとおり、小学校と中学校が連携をして同じ実践事項を決めて取り組みを始めました。「笑顔であいさつ・無言清掃・服装を整える」が共通実践項目です。小郡中学校ではあいさつのマナーとして「先言後礼」をしてお小学校でも始めました。靴下の色も中学校へなめらかに接続していこうという意味でも取り組んでいきたいことです。特に、高学年では1学期に白い靴下をして授業を受ける子がとても増えてきました。とても有り難いことで皆様のご協力に感謝しております。

靴下だけではなく、『服装の乱れは心の乱れ』という言葉もあります。今後ともご協力とご家庭での目配りをよろしく願いいたします。

交通事故・水難事故に絶対あわないように

長い休みは、気分が開放的になり注意力が散漫になりがちです。「慣れた道ほど事故にあいやすい」とも言われます。各家庭におかれましても家の近くであっても「交差点では一時停止をする」「自動車が通る道へは飛び出しをしない」などの声掛けを繰り返しお願いします。

梅雨は終わりましたが、急に大雨が降りやすい天候が予想されます。集中的に大雨が降りますと用水路や川の水かさが短時間で急増します。絶対に川や用水路には近づかないようにご指導ください。

子どもの水難事故防止のために

- 子どもだけでは絶対に川遊びに行かないでください。
- 保護者が一緒にいながら、目を離したわずかな隙に事故が発生しています。また、浮き輪を使っているからと安心できません。常に目配りをお願いします。



もらう幸せ・できる幸せ・あげる幸せ

先日講演会で伺った言葉です。子どもたちに夏休みに実感させたいいいなと思い紹介します。

もらう幸せ…誕生日にプレゼントをもらうとうれしいものです。やさしくしてもらっただけで心がなごみます。大袈裟ですが、子どもたちなりに「愛」を感じることでしょう。子どもたちは夏休みに多くの人とかかわって、もらう幸せを実感させてあげてください。

できる幸せ…2.5m泳げた！逆上がりができた！ピアノの曲がうまく弾けた！勉強ができた！などなど、できなかったことができるって達成感があります。子どもたちが頑張る環境を作ってあげ、少し困難を与えて取り組ませてください。できる幸せを感じる機会が多ければ多いほど、夏休みの子どもたちの成長は大きいものになるでしょう。

あげる幸せ…人にもものをあげる（プレゼントをする）ことだけではありません。人のものをあげたり困っている人を助けてあげたりするときに感じる幸せです。本人が感じなくても相手に幸せを与える経験をしてほしいものです。

大人でも、「もらう幸せ」「できる幸せ」で終わっている人が多いそうです。逆に、小学生でも「できる幸せ」まで身に着けている人もいます。



1学期にあったほんの小さな出来事です。私は、「もらう幸せ」を小学生からもらいました。

算数の授業を始めてすぐに教師用の指導書を職員室に忘れてきたことに気づきました。

授業が始まっており、中断して取りに行くわけにもいきません。

文章問題をやる授業でした。教科書の問題文を私が読むときに、一番前の席の児童の教科書を見て読みました。別に断りもなく読み始めたのですが、その子は、教科書を180°回転させて私のほうに向けてくれました。そんな行為が心を明るくさせてくれるのです。その子の心の清らかさを感じるとともに、その子から幸せをもらいました。

子どもたちの知・徳・体のさらなる成長を…願っております。